

# アフリカに関する舞踊人類学の研究動向

遠藤保子

## はじめに

1960年、ゲルトルド P. クーラス Gertrude P. Kurath が“ダンスエスノロジーのパノラマ”<sup>\*1</sup>と題する論文を発表している。

クーラスは、モダンダンスの教師として、またコンサートパフォーマーとして、そしてダンスエスノロジストとして積極的に活動し調査研究を行い、ダンスエスノロジーに多大な功績を残した研究者の一人である。

クーラスは、ダンスエスノロジーとエスノコロロジーを同じ意味にとらえながら、ダンスは人類学の一研究領域として人々の生活、社会そして文化等との関わりを科学的に研究すべきであると論じている。

彼女の研究テーマは、文化の伝播や文化変容などがあげられ、その時代の人類学者であるクローバー A. Kroeber Alfred やボアス F. Boas Franz などの影響が読み取れる。

ダンスを中心的な研究対象として人類学的に概観、考察したという観点から上述の論文は記念すべき論文と考えられている。

その後、1978年にはアドリーネ L. ケプラー Adrienne L. Kaeppler が人類学的なダンスに関する研究動向を展望している。

ケプラーによっても、クーラスはダンスエスノロジーには欠かすことのできない研究者、またはパイオニアとされ、ジョアン J. ケアリノホモク Joann J. Kealiinohomoku やドナルド N. ブラウン Donald N. Brown 等に影響を与えた学者として重要視されている。

ケプラーによれば、ケアリノホモクの研究の特性は、クーラスの業績を発展させた記譜法、つまりグリフ (glyph) ノーテーションをもちいて検討したこととする。グリフノーテーションは、ダンス・ムーブメントを即座に記録しえる記録法として有効であり、ケアリノホモクは、このノーテーションによってアフリカとアフロ・アメリカのダンスの相違に照準をあてた興味深い論文を発表している。

この他、ダンスは各々の文化において慣習化された日常動作がパターン化、発展したという考えにたち分析する舞踊計量学 (コレオメトリックス) のアラン・ローマックス Alan Lomax、舞踊の人類学を著し、学問的な基礎を築いたアンヤ・P. ロイス Annya Peterson Royce、人間の動作と言語

システムと関わりを論じるケネス・パイク Kenneth Pike<sup>\*7</sup>、アリス・シンガー Alice Singer<sup>\*8</sup>そしてケプラーなどの研究者が人類学的にダンスを検討している。

石福恒雄氏の“舞踊の人類学 — 展望と試論”を引用するまでもなく、舞踊の人類学は60年代にルールがしかれ、70年代以降、言語学の分野からも検討されるなど一層活発になってきている。

こうした全般的な研究動向をふまえながらつきに、アフリカ (特に西アフリカ) に関する舞踊人類学の研究動向を探ってみたい。

## アフリカの舞踊人類学

— 50年代～60年代にかけて —

クーラスが参考文献としてあげた、アフリカのダンスに関する初期の書物は、1944年出版されたジェフリー・ゴラー Geoffrey Gorer<sup>\*10</sup>の“原始的なアフリカ社会におけるダンスフォームの機能”である。これは、世界の舞踊を広範囲に考察したクルト・ザックス Kurt Sacks<sup>\*11</sup>と同じように人類学的な研究視点が足りないものの、アフリカのダンスを中心テーマにした点でその後のダンス研究の布石といえるかもしれない。

その後、50年代から60年代にかけてダンスは人類学的な研究テーマとして取り上げられるようになっていく。前述したケアリノホモクは、1958年すでにノース・ウエスタン大学の修士論文の中でアフリカとアフロ・アメリカンの舞踊比較を行っている。(1979年アメリカ舞踊学会誌CORDに掲載) また、エンサイクロ・オペデア・シネマトグラフィカ (西ドイツ) でアフリカのダンスを体系的にフィルムにおさめ分析を行ったギュンター H. Helmut Gunter<sup>\*12</sup>、ダウアー M. Michel Dauer<sup>\*13</sup>、チョピのダンスと音楽を考察したトレーシー H. Tracy Hugh、ナイジェリアのイフェ大学で教鞭をとりながらダンスの動作と日常生活や宗教や世界観との結びつきを論じたペギー・ハーバー Peggy Harper<sup>\*15</sup>等の研究者がいる。

また、音楽学の分野でもアフリカの音楽とさらにはアフリカとインドネシアの音楽との関わりを考察したジョーンズ A. Jones A. M.、身体行動や言語行動など幅広い視点でアフリカの音楽を問題にした“音楽人類学”のメリアム M. Alan Merriam<sup>\*17</sup>、ガーナ大学アフリカ研究所の所長をつとめるかたわら、音楽、ダンス、そしてドラマな

どを総合的に検討したンケチア K. Nketia J. Kwabena<sup>\*18</sup> ウガンダの音楽を多面的にとらえたバックスマン K. Wachsmann K. P.<sup>\*19</sup>、西アフリカにおけるポピュラー音楽をとりあげたスミス E. Smith Edna M.<sup>\*20</sup>などの研究者による詳細なフィールド・ワークによる実証的な報告や、徐々にではあるがアフリカ人研究者による報告もなされるようになってきた。

— 70年代～80年代にかけて —

さらに、70年代から80年代になると研究は音楽学はもとより言語学、芸術（彫刻）との関わりなど、より広範囲にしかも多彩に行われるようになってきている。

ハンナ L. Hanna Judith Lynne<sup>\*21</sup>は、ナイジェリアのイボ族でフィールド・ワークを行い、1976年ウバカラダンスのアンソロポロジーで Ph. D. を取得し、それ以後主としてイボ族で踊られるダンスを考察し、アフリカのダンスとは何か<sup>\*22</sup>、身体のアンソロポロジー<sup>\*23</sup>、また、ノンバーバル(非言語)コミュニケーション理論を著した“*To dance is Human*”<sup>\*24</sup>など優れた書物を発表している。過去と未来におけるアフリカのダンスを問題にしたベルガー R. Berger R.<sup>\*25</sup>、文化の核としてのアフリカとアメリカのダンスを検討したハザードゴードン K. Hazzardgordon K.<sup>\*26</sup>などケアリノホモク以後もさまざまな角度からアフリカとアフロ・アメリカのダンス比較が行われている。

さらに、ンケチアはじめアフリカ人研究者による報告も増えてきている。ナイジェリアにおける音楽を紹介したエウバ A. Euba Akin<sup>\*27</sup>、アフリカの口頭伝承における歌の機能について考察したオブケ O. Obuke Okpure O.<sup>\*28</sup>、など。また、ダンスとその関連領域との関わりにも目が向けられ、たとえば、子供の遊び（アクション・ソング、プレイ・ソング、ゲーム・ソング、ピュアー・ソング etc）とスワヒリの世界観を論じたイーストマン C. Eastman Carol M.<sup>\*29</sup>、アフリカの芸術（動きのある彫刻）とダンスとの関わりを報告したトムプソン R. Thompson Robert Farris<sup>\*30</sup>と、ますます多彩な研究が報告されている。

このような研究動向は、主として60年代に築かれた舞踊人類学の研究業績を基礎として、70年代から80年代にかけてさらに発展させてきたことが伺える。

また、前述したドイツのフィルム百科はいうまでもなく、研究機器の開発、普及によって体系的に収録されたビデオフィルムやCDやレーザーディスク利用が可能になり、今後ますます書物では得られない研究成果が期待される。

なお、舞踊の人類学に関する最新情報は、ダイ

アログのRILM アブストラクト等から検索できる。

- 1) Gertrude Prokosch Kurath, 1960 Panorama of dance ethnology In *Current Anthropology* 1 pp.233-254
- 2) Adrienne L. Kaeppler, 1978 Dance in anthropological perspective In *Ann. Rev. Anthropology* 7 pp.31-49
- 3) Joann J. Kealiinohomoku, 1976 A comparative study of dance as a constellation of motor behaviors among African and United States negros In *Refrections and Perspectives on Two Anthropological Studies of Dance* CORD Res. Ann. 7 pp.1-179
- 4) Danald N. Brown, 1976 The dance of Taos Pueblo In *Refrections and Perspectives on Two Anthropological Studies of Dance* CORD Res. Ann. 7 pp.181-272
- 5) Alan Lomax, 1968 Folk Song Style and Culture Am. Assoc. Adv. Sci.
- 6) Annya Peterson Royce, 1977 The Anthropology of Dance Indiana Univ. Press Bloomington and London
- 7) Kennth Pike, 1967 Language in Relation of a Unified Theory of the Structures of Human Behavior The Hague : Mouton
- 8) Alice Singer, 1974 The metrical structure of Macedoniann dance In *Ethnomusicology* 18(3) pp.379-404
- 9) 石福恒雄, 1982 舞踊の人類学—展望と試論—舞踊学第5号 pp40-41
- 10) Gorer Geoffrey, 1944 Function of dance forms in primitive African communities In *The Function of Dance in Human Society (First Seminar)* pp.19-34 New York
- 11) Curt Sachs, 1933 *Eine Weltgeschichte des Tanzes* Huge bibliography Berlin : Reimer
- 12) Helmut Gunther, 1969 Grundphanomene und grundbegriffe des afrikanischen und afro-amerikanischen tanzes Universal Edition Graz
- 13) Michel Dauer, 1967 Stil und Technik im afrikanischer Kunst in Dakar 1966 In *Afrika heute Sonderbeilage Nr. 24* Koln
- 14) Tracey Hugh, 1948 *Chopi Musicians : Their Music, Poetry, and Instruments* London
- 15) Peggy Harper, 1967 Dance in a Changing Society In *African Arts* I /1 pp.10-13

- 16) Jones A. M., 1960 Indonesia and Africa : the xylophone as a culture-indicator  
In *African Music* 2 pp36-47
- 17) Alan P. Merriam, 1964 *The Antholopology of Music* Evanston
- 18) Nketia J. Kwabena, 1965 *Music, Dance and Drama : A Review of the Performing Arts of Ghana* Accra
- 19) Wachsmann K. P., 1958 A Century of Change in the Folk Music of an African Tribe In *Journal of International Folk Music Council* X pp.52-56
- 20) Smith Edna M., 1962 *Popular Music in West Africa* In *African Music* III/1 11-14
- 21) Hanna Judith Lynne, 1976 *The anthropology of dance ritual : Ubakala Nkwa di Iche Iche* Ph. D. Diss., Colombia U., New York
- 22) ———, 1970 *What is African dance?* In *New African literature and the arts* New York pp.312-317
- 23) ———, 1975 *The anthropology of the body* In *Dance Research Journal* VII/2 pp.39-43
- 24) ———, 1979 *To dance is human—A Theory of Nonverbal Communication* University of Texas Press, Austin and London
- 25) Berger R., 1986 *African dance in the past and future* In *Dynamische Psychiatrie* V19 N1 pp.47-51
- 26) Hazzardgordon K., 1985 *African—American Vernacular Dance—Core culture and meaning operatives* In *Journal of black studies* V15 N4 pp.427-445
- 27) Enba Afin, 1970 *Traditional elements as the basis of new African art music* In *African urban note* V/4 (winter) pp.52-62
- 28) Obuke okpure O., 1985 *Function of song in African Oral Narratives* In *Jahrbuch fur Musikalische Volks—und Volkerkunde* 12 pp.50-60
- 29) Eastman Carol M., 1986 *Nyimbo za watoto : The Swahili child's world view* In *Ethos*, Sum Vol 14(2) pp.144-173
- 30) Thompson Robert Farris, 1974/79 *African Art in Motion*